津軽白神 ふれあい通信

津軽白神森林生態系
保全センター

平成２６年１２月１日発行　№１０２

秋のくろくまの滝

今年度最後の自然再生活動を実施しました

１０月３０日（木）鰺ヶ沢町の東赤石山国有林内で、１１名の方々にご参加をいただき、今年度最後の自然再生活動を実施しました。

今回の自然再生活動は、付近で採取したトチやミズナラの種子を自然再生活動拠点に播種するという取り組みを行いました。

カミネッコンは初めてです

播種にあたっては、段ボールでできたポット「カミネッコン」を使用し、ポットの中に土と種子を入れて林内に埋め込むという作業を行いました。

参加者の皆さんは「カミネッコン」の組み立てに四苦八苦。それでも２個３個と組み立てていくうちに要領も得て、徐々に慣れてきたようでした。

沢山組み立ててみました

午後からは、くろくまの滝と町道赤石渓流の散策を行いました。

くろくまの滝は数日前までの雨の影響で水量も多く、迫力満点の景観でした。

赤石渓流線では、おもだった地点にそこから眺められる景色を表示した看板がありますが、「獅子頭」と書かれた看板の前では、「見る人が見れば『獅子頭』に見えるのかしら」、「大仏岩」の前では「あれが大仏の足に見えるんでしょうね」などと、自分たちなりの解釈をしながら景色を楽しんでいました。

参加者の多くは、赤石渓流線の散策は初めてだったようで、「ここを歩くのは初めてだけどきれいね」などと、見頃の紅葉を満喫していたようでした。

くろくまの滝でパチリ

赤石渓流の散策は好評でした

今年度の当センターの行事は、この日で終了しましたが、来年度もまた様々な行事を企画したいと考えておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。

センサーカメラがニホンジカを撮影

白神山地の世界遺産地域から約１５０ｍ地点となる青森県深浦町追良瀬川上流に設置していたセンサーカメラがニホンジカを撮影しました。

１０月１４日の深夜から１５日の午後の間に計３回撮影され、角の特徴などから、同じ雄のニホンジカが３回撮影されたものと思われます。

また、１０月１７日には秋田県八峰町で世界遺産地域まで約１５０ｍ地点でニホンジカと思われる動物が環境省設置のセンサーカメラで撮影されています。

１１月２１日には、青森県深浦町の西海岸広域農道において、同町の男性が軽乗用車で走行中に、突然飛び出したニホンジカをはね、深浦町教育委員会職員が死体を確認しています。

近年、全国各地の森林や農地で、甚大なシカ被害が発生、東北森林管理局管内においてもシカの生息域が拡大しており、白神山地周辺の自然植生や生態系への影響が懸念されています。

当センターでは急遽、追良瀬川上流にセンサーカメラ３台を増設するなど監視体制を強化し、引き続き世界遺産地域とその周辺での生息情報の収集に努めて参ります。

遺産地域間近で撮影されたニホンジカ(10/14)

遺産地域間近で撮影されたニホンジカ(10/15)

深浦町で車にひかれたニホンジカ(10/21)

◎　鰺ヶ沢プチ情報　◎

１１月６日（木）、当センターに隣接する鰺ヶ沢保育所の園児たち１７人が勤労感謝の日に先立って来所し、当センター職員の日頃の労をねぎらってくれました。

この行事は毎年行われているもので、町内近隣の職場を回っているとのことです。

園児たちは元気いっぱいにねぎらいの言葉をかけてくれ、「おしごとがんばってください」と書かれた園児たちお手製の貼り絵も頂きました。

また、天井も飛ぶのではないかとおもわれるような大きな声で「世界中のこどもたちが」という歌も歌ってくれました。

最後に当センターの石田所長より、園児たちに「これから寒くなりますが、風邪などひかないように、元気いっぱいに過ごしてください。」との挨拶をしました。

鰺ヶ沢保育所では、小さな子供たちにも自然環境に親しんでもらえるようにと例年春に当センター職員の指導のもと「花いっぱい運動」という花の植え付けイベントを行っています。

◎　深浦プチ情報　◎

深浦町北金ヶ沢地区の、樹齢千年を超えるとされる大イチョウ（垂乳根の銀杏）が、今年もみごとな黄葉を見せました。

このイチョウは樹高３１ｍ、幹周り２２ｍほどあり、平成１６年に国の天然記念物に指定されました。

また、古くから神木として崇められており、幹のあちらこちらから垂れ下がる気根に触れると、母乳が不足している女性に乳が授かるとされています。

この大イチョウは、平成２４年から深浦町が「ビッグイエロー」と名付け黄葉の時期にライトアップしています。今年度は１１月２０日からライトアップを実施しましたが、落葉が早かったため予定より早い２８日で終了しました。

～職員のコラム～

私にとっての白神山地

行政専門員　川村　幸春

初冬を迎えたブナの森は、静寂の中でこれからの寒さと戦うかのように、木々もすっかり葉を落とし黒くたくましくたっている。その山肌にある雪の白さとのコントラストはまさに水墨画の世界であろう。静かに眺めていたくなる。

つい一月ほど前までは、ブナやモミジなどが紅葉、黄葉と咲乱れ錦織りなす世界は自然のなせる技、人々を魅了してやまなかった。今年も多くの人に感動を与えたことだろう。

夏には、木々の葉が行う光合成により、放たれた酸素が目に見えるような、強烈な緑に圧倒された。

春は、これから育つ若い薄緑色から、だんだんと成長していく緑に、春モミジの鮮やかさと、生命の躍動感を感じながら、まるで生きる力までも沸きあたえてくるようだった。

都会的な名前を持ちながら未舗装部分の多い「白神ライン」を走りながら、ところどころに用意されている世界自然遺産展望所から遺産地域の山並みを眺める。

走ってきた自然の道を受け入れろ。ちいさくなるなとたしなめられるようだ。

雄大である。ありのままがいいのだと理解するが、この道をスポーツカーで通り抜けた人がいた。車が心配になった。いろいろな人がいるものだ。

ゆっくりとただゆっくりと自然と戯れながら通れたらいい。

巡視活動でニホンザル、ニホンカモシカ、ツキノワグマ、クマゲラなどや、ツガルミセバヤ、シラガミクワガタ、トガクシショウマなどの貴重な動植物に出会うたびに喜びを感じ、ここにしかないモノと会えた時はある種の優越感と達成感で疲れなんか吹き飛んでしまう。

白神山地から流れ出る沢のせせらぎや川の水音を聞きながら木陰に腰をおろして喉を潤す、至福の一時である。湧き水で入れたコーヒーもまた格別だ。

私にとっては楽園そのものである。まさにここは天然の美術館であり動物園であり植物園だ。

大自然に居る幸せを感じながら、人生あせらずゆっくり行けと白神山地は教えてくれるような気がする。

今更でもないが、白神山地はすばらしいところだと思う、多くの人に来てもらいたいものだ。

次世代を担う若者にも、白神山地を解ってもらえるような取り組みも、もっともっと必要だと感じるとともに、白神山地を永遠に引き継いでいけるように、努めなければならないと強く思っているところである。

津軽白神森林生態系保全センターホームページ

http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/syo/tugarusirakami/index.html